

コミュニティバスの収支構造について

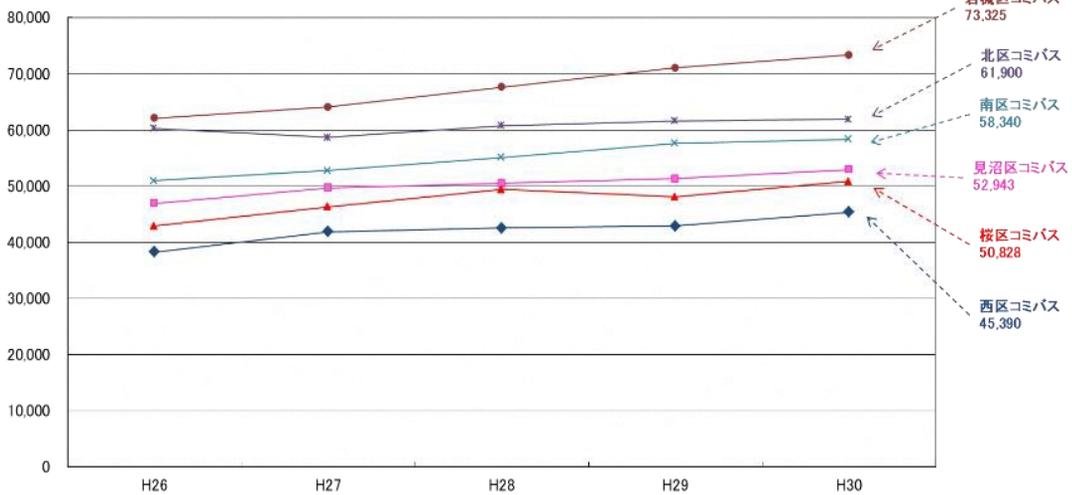
資料3

◆利用者数と収支率の関係

- ・ 令和元年度第1回バス専門部会における報告事項内で、利用者数が増加しているにもかかわらず、収支率が低下している点について分析を行う。
- ・ 利用者は、概ねいずれの区でも、年々増加傾向にある。
- ・ 一方、収支率はH28からH29にかけて上昇しているものの、H29からH30にかけて低下している。
⇒ 収支率に影響を及ぼす運送経費について、H28からH30の推移に着目して考察する。

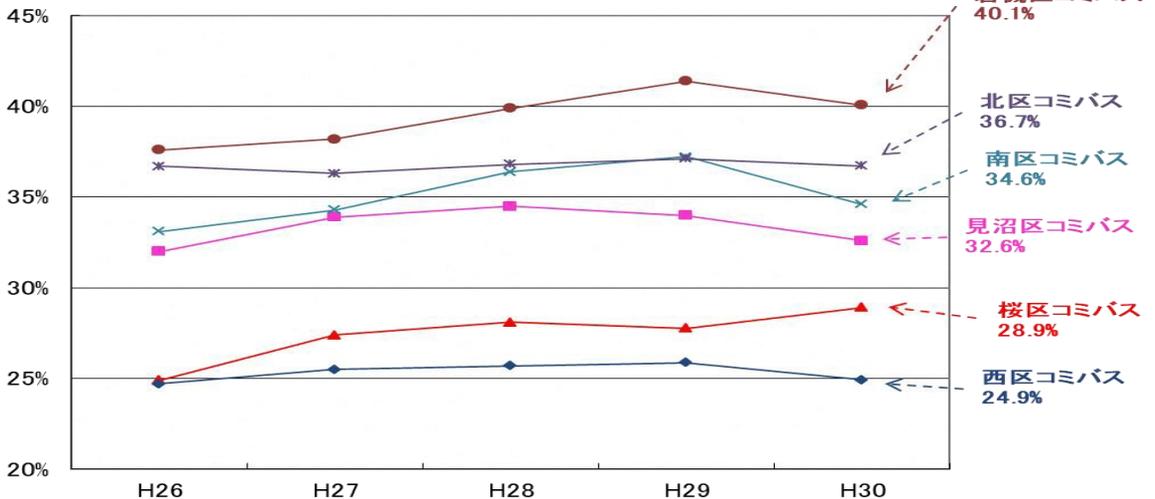
■コミュニティバス利用者数

利用者数(人/年)



■コミュニティバス収支率

収支率



コミュニティバスの収支構造について

資料 3

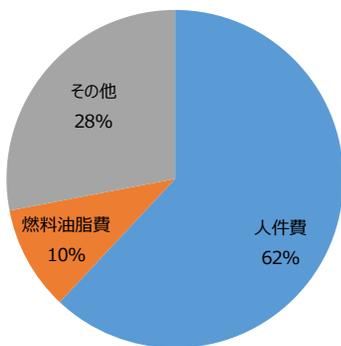
◆ 運送経費

- ・ 運送経費の約7割が人件費及び燃料油脂費であり、人件費と燃料油脂費は共に増加傾向である。
- ・ 人件費については、全国と比べるとH28⇒H30にかけて上がり方に違いはあるものの増加している。
- ・ 燃料油脂費についても、全国における燃料油脂費単価と同様に増加傾向である。

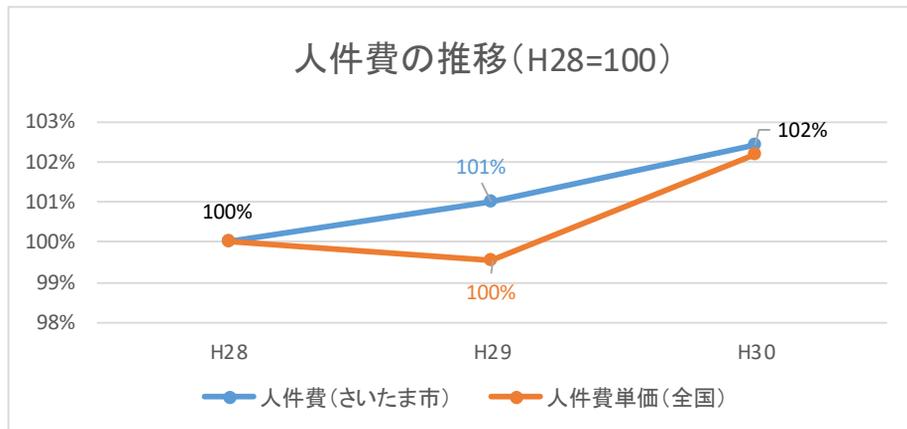
⇒ 人件費の増加は僅かであるが、運送経費の6割以上を占めており、収支率に与える影響は大きい。

また、燃料油脂費についても増加傾向にあり、人件費と同様に収支率に影響を与えている。

■ 運送経費の内訳 (H30)



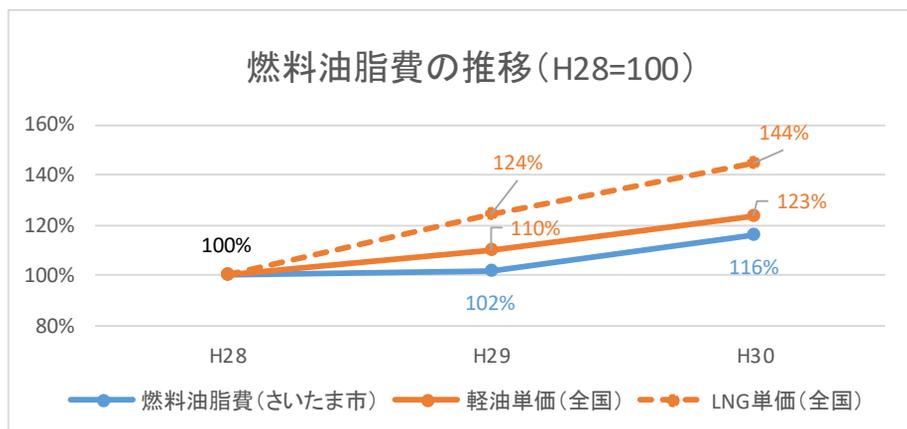
■ 人件費の推移



(参考)

【人件費単価(全国)】さいたま市単価本

■ 燃料油脂費の推移



(参考)

【軽油単価(全国)】石油製品価格調査(資源エネルギー庁)

【LNG単価(全国)】スポットLNG価格調査(経済産業省)